

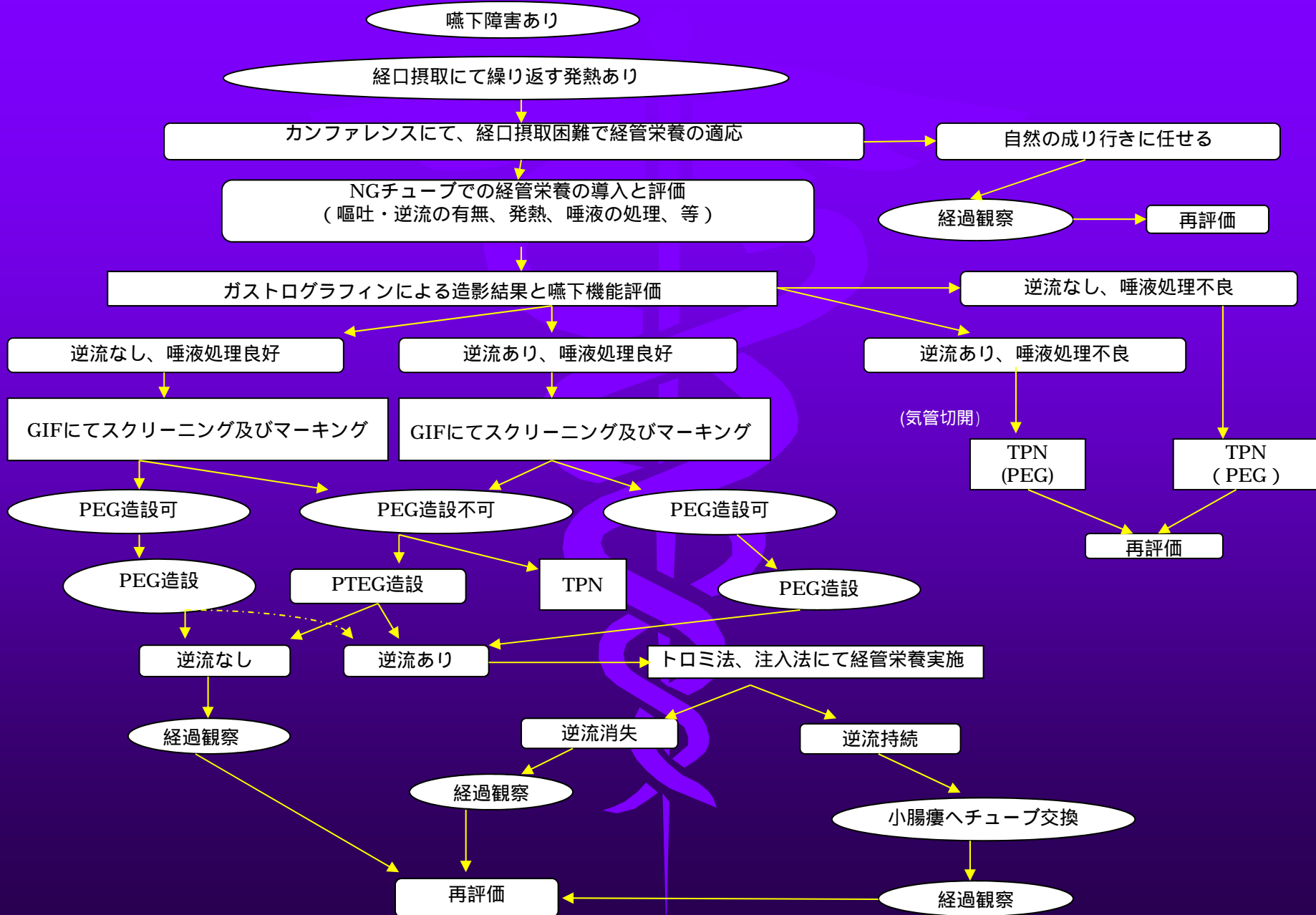
老人の専門医療を考える会 第35回全国シンポジウム

資料

嚥下障害者における栄養摂取方法の違いによる利点・欠点

	経口摂取	経管栄養	経管栄養	経静脈栄養	経静脈栄養	経皮下栄養
	経口摂取にこだわる	経鼻胃管栄養	胃瘻栄養	末梢ルートからの点滴	中心静脈栄養	皮下ルートからの点滴
利 点	<p>食事に対する楽しみや意欲を保つことができる</p> <p>老健や特養等の施設入所がしやすい</p> <p>介護療養病棟の利用が可能</p>	<p>手技は比較的容易</p> <p>長期にわたり十分な栄養補給ができる</p> <p>管を通じて薬の投与ができる</p> <p>介護療養病棟の利用が可能</p>	<p>長期にわたり十分な栄養補給ができる</p> <p>外観を美しく保てる(化粧なども可能)</p> <p>経口摂取と併用できる</p> <p>管を通じて薬の投与ができる</p> <p>介護療養病棟の利用が可能</p> <p>老健や特養等の施設入所が可能な場合あり</p>	<p>手技が容易なため、比較的簡単にできる</p> <p>脱水症を改善できる</p>	<p>比較的長期間にわたって十分な栄養補給ができる</p>	<p>手技が容易なため、簡単にできる</p> <p>脱水症を改善できる</p> <p>点滴ルートの確保は不要</p> <p>経口摂取や経管栄養、経静脈栄養が実施不能な場合に病状の急速な進行を予防することができる</p>
欠 点	<p>窒息の危険がある</p> <p>肺炎になりやすい</p> <p>脱水症になりやすい</p> <p>栄養失調になりやすい</p> <p>薬の摂取が困難となる場合がある</p> <p>寿命は短い</p>	<p>経鼻胃管チューブの誤挿入や引き抜き事故の危険がある</p> <p>経口摂取との併用はやや困難</p> <p>外観が悪い</p> <p>老健や特養等の施設入所は困難</p>	<p>胃瘻造設術を受けなければならない(専門機関にて)</p> <p>胃瘻チューブ交換に技術を要する</p> <p>胃瘻チューブの誤挿入や引き抜き事故の危険は低いがある</p>	<p>栄養補給としては不十分で、栄養失調になりやすい</p> <p>長期間継続することは困難</p> <p>介護療養病棟の利用は困難</p> <p>薬の摂取が困難となる場合がある</p>	<p>手技に熟練を要するため、いつでもどこでもできるわけではない</p> <p>感染等の合併症の恐れがある</p> <p>管理が複雑である</p> <p>在宅での実施には工夫が必要</p> <p>介護療養病棟の利用は原則的に不可能</p> <p>薬の摂取が困難となる場合がある</p>	<p>栄養補給としては不十分で、栄養失調となる</p> <p>長期間継続することは可能</p> <p>介護療養病棟の利用は可能</p> <p>薬の摂取は困難である</p> <p>寿命は短い</p>

栄養投与経路としての胃瘻造設のフローチャート



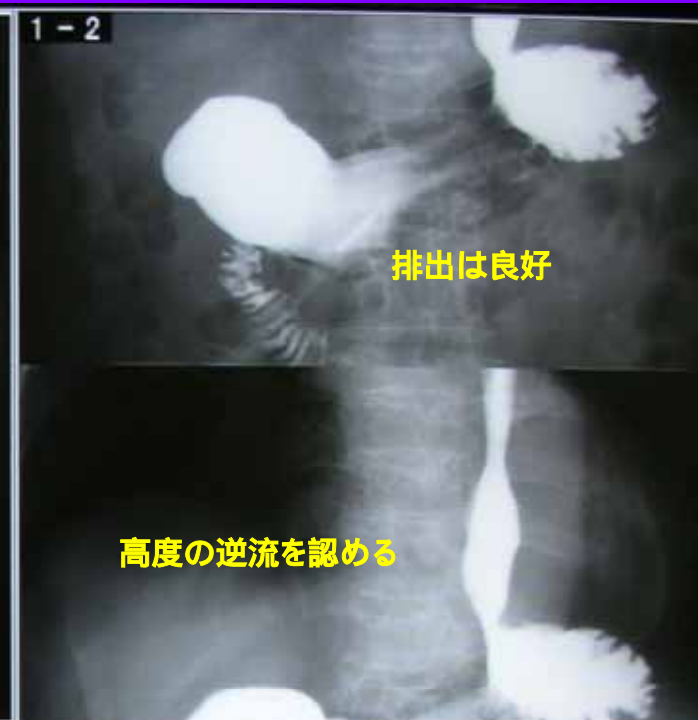
PTEG (経食道的胃瘻) の適応

- 1 . 咽頭、食道、噴門に狭窄を認め内視鏡の挿入が困難であるが、経鼻胃管の挿入が可能な場合。(経鼻内視鏡があれば胃瘻造設の適応)
- 2 . 開口障害にて内視鏡の挿入が困難。(経鼻内視鏡があれば胃瘻造設の適応)
- 3 . 多量の腹水貯留。
- 4 . 著明な肝腫大。
- 5 . 胃手術の既往にて胃瘻造設が困難。
- 6 . 腹部手術の既往にて胃瘻造設が困難。
- 7 . 横隔膜ヘルニア。









身体拘束をなくすための「車椅子」

- 体に合わない車椅子に長時間同じ姿勢で座り続けることは困難で、苦痛を伴うことが多い。このため、立ち上がってその車椅子から離れようとしたり、滑り出してその状況から逃れようとすることで、事故につながる場合がある。
- 斜め座りや滑り座りが見られる場合には「座位保持機能の高い車椅子」、ティルトリクライニング型車椅子を使用すべきであり、リハビリスタッフによる車椅子調整が重要である。

ティルトリクライニング車椅子



車椅子座位姿勢の比較

リクライニング車椅子



ティルト・リクライニング車椅子



良肢位での座位保持

認知症患者における 在宅医療との連携

- 抑制しなければ治療が行えないといった古い既成概念にとらわれず、柔軟な発想と治療方針の選択を行うことが重要である。
- 治療のために抑制ではなく、抑制ゼロで生じるであろう事態をあらかじめ推測し、生じるであろうアクシデントレベルを軽減できるような治療方針・手術術式等を工夫して実施し、在宅療養と連携していくことがきわめて重要である。

多職種連携のカンファレンスとは

1. 主治医
2. 看護師
3. リハビリスタッフ
4. 栄養士
5. 患者の家族

が参加することが必要不可欠であり、さらに

6. ケアスタッフ
7. 薬剤師
8. MSW

の参加もあることが望ましい。